

第10回科学の甲子園全国大会島根県予選大会 10/18(日)

第10回科学の甲子園全国大会県予選が10月18日に出雲高校で開催され、益高からは理数科の1・2年生の2チーム、計12名が出場しました。

午前の筆記競技では、チーム6人で分担・相談しながら物理、化学、生物、地学、数学、情報の問題を60分で解きました。授業で学んでいない内容が数多く出題されるため予習をして臨んだものの、予想を超える難問も出題され、苦戦したようです。（問題は非公開）

午後の実技競技では、事前公開の課題「支柱（筒）の強度を高めよう！」をもとに科学的技術を総合的に活用して競い合う2つの競技に、各チームから3人ずつが挑みました。実技で1位を目指して放課後も練習を重ねた結果、課題はクリアしましたが、本番独特の緊張感に包まれて練習通りにいかず、悔しい思いをしました。

競技後には、島根大学総合理工学部の荒河一渡先生の「『生きている』金属～透過電子顕微鏡による原子配置の乱れの研究～」と、酒井哲弥先生の「自然災害から身を守るために自分の住む大地を知ろう！-島根県東部の大地の成り立ちと自然災害-」の2つの講演を聴きました。身近な原理・現象をわかりやすくお話しいただき、有意義な時間となりました。

競技結果は9チーム中、益高2年生チームが3位、1年生チームが7位でした。全国大会出場は逃しましたが、それを目指して準備してきたことで達成感を味わい、チームワークの大切さを改めて感じた機会となりました。

